

理学部化学コース K.A.



全体的な感想

本プログラムを終えて、私が思い浮かべる事は、やはりコミュニケーションについてです。

一つは英語力。UBDでの留学生活を送るための私自身の英語力は、相当低いものでした。その洗礼は、初日から私に降りかかるものでした。そんな中、UBDの留学において、現地には日本人は私だけと伺っており、良い環境に身を置けると思っていたのですが、実際には19人もの日本人が留学生活を送っていました。UBDの寮のシステム上、同じ国からの学生が同室になることが多く、私自身も5人部屋で5人全員が日本人という、外国にいることを感じられない環境でした。そのため、初めの1か月はあまり慣れていないこともありますし、日本人とずっと一緒にいてしまうという留学らしからぬ生活をしてしまい、英語の経験を積む機会を能動的に確保せず、留学の楽しさを感じることができませんでした。そのため後半の3か月間は、できるだけ日本人との接触を最小限にし、他の学生と交流を取ることで、この問題を解消しました。

次に現地学生との関係性についてです。UBDの講義は基本的に、授業とチュートリアルの2部構成になっており、講義によっては週に2回開講されます。チュートリアルの時間では、ディスカッションやプレゼンテーションが主になっています。そのため、現地の学生は講義のない時間を使い、学生間で事前ミーティングやディスカッションを行って、チュートリアルに備えます。それに参加するには、学生が誘ってくれることがありますが、基本的には自分から積極的に話しかけることで参加までこぎつけます。講義によっては、決められているものもあるようですが、基本的にはプレゼンテーションのグループに関しても、自らメンバーを探さないとグループに入ることはできません。これらの「自ら積極的に行動する」事は、講義にだけ言える事ではなく、生活においても同様な事が言えます。ブルネイでは、どこへ行くにも車があった方がよく、現地生活を不自由なく楽しむためには、現地学生の協力が必要です。総じてこれらには、積極的・能動的なコミュニケーションをとらなければなりません。私自身は問題なく関係を築くことができたので、生活には困らず、パーティや結婚式にまで招待していただくことができました。

現地学生だけではなく、寮にはブラジルやタイ、韓国などの他国からの留学生が沢山いたので、彼らとの交流を取ることもできました。また、私は実際参加できなかったのですが、大学内には日本人の先生や、日本滞在経験のある先生方も居られたので、その先生方に課外学習に誘っていただくこともありました。

全体を通じて、ブルネイでの留学は自ら能動的に行動すれば、周りの生徒たちはそれに応えてくれ、何も行動しなければ英語どころか講義にも置いて行かれてしまうということを、身をもって体験しました。講義の出来は別として、私はコミュニケーションという面での留学体験においては、結果として問題なく行動できたと思います。多くの友人ができ、英語に対しての意識が高くなつた分、帰国後はこの意識が低くならないよう努力し、この経験を今後生かしていくよう尽力していきたいと思います。